

高梁市医療計画の成果・進捗状況

資料 1

赤：平成30年度中に着手すべき（53項目）→49項目着手
 黄：令和元年度中に着手すべき（38項目）→21項目着手
 青：令和2年度以降に申し送るべき（9項目）→3項目着手

令和2年度に重点的に取り組む事項

通番	基本方針	取組みの方向性	施策	考えられる検討事項		成果・進捗状況
1	1 住民の医療需要が変化しても、適切な医療が受けられること	1-1 市内医療資源の最適配分に向けた医療機関等の連携強化	1-1-1 医療従事者の採用・配置等の人材政策や医療提供拠点の配置適正化等について市内医療機関等が連携強化して取り組む体制の構築に向け、市内医療機関と教育機関が連携して検討を推進します。	医療機関間の役割分担	医療機能における役割分担	・市内医療機関の関係者等を交えた高梁市医療機関連携推進部会を年4回開催している。 (令和元年度) ・有漢診療所を令和元年12月1日から有漢地域センター内へ移転。 (令和2年度) ・市内医療機関の特性・連携状況をわかりやすくまとめたポスターを作成。 ・川上診療所から歯科部分を独立させ、新たに川上歯科診療所を4月1日から配置。
2					担当地域における役割分担	・同上
3					医療機関同士が共同で実施する取組み	採用・配置等の人材政策 教育機関と連携した採用強化
4				医療機関間での医療従事者の異動、出向・派遣	(平成30年度) ・看護師が現時点で約20名不足している状況を把握した。 ・診療所から病院へ放射線技師の異動が成立。	
5				業務負荷を分散しつつ、医療提供体制を維持する仕組みの検討	(令和元年度) ・有漢診療所を12月1日から有漢地域センター内へ移転。	
6				小児科の診療時間調整	(令和元年度) ・市内病院へ小児救急の調査を実施。 ・小児医療（救急含む）の現状を関係者で共有し、時間別の救急件数から現在の診療時間のままで対応することとなった。 ・緊急性のない電話連絡の件数も少なくないことから#8000の普及に努めていく。（市HPへUP済）	
7				総合診療医の配置を含めた検討		
8				診療科の充実要望の優先順位付け		
9				設備の共有・共同購入	(平成30年度) ・同じ業者から医療材料の購入に向け始動。	
10				連携体制構築を実効的なものにするための検討 医療現場のスタッフの理解深化		
11				病床数の検討		
12	1-2 医療提供体制の充実に向けた新たな政策的対応の検討	1-2-1 医療の供給強化が必要な範囲を特定した上で、投資対効果が見込まれる事業について、公的支援も含めた検討を推進します。	1-2-1 公的支援が必要な範囲	特に手当てを要する地域		
13					特に手当てを要する医療機能や診療科	(令和2年度) ・感染症に対応する病床整備に対する補助制度を新設。
14					政策的に推進されているテーマの把握	
15				技術動向や導入事例の調査	(令和2年度) ・遠隔診療等の先進的な取組みを実施している地域への視察経費を計上。	
16				試験事業の検討		
17	1-3 市内医療機関が一体となった市外医療機関との連携パス構築	1-3-1 市内医療機関で連携して、市外医療機関との送迎協定の締結等の連携強化に向けた検討を進めます。	1-3-1 高度急性期医療を担う市外の中核病院との連携		・平成28年度KDB、後期高齢者レセプトデータにより高度急性期・急性期で多くの市民が入院している病院は以下のとおり。 倉敷中央病院900人 川崎医科大学付属病院600人 岡山大学病院170人 岡山赤十字病院140人 国立病院機構岡山医療センター110人 (令和元年度) ・市外の中核病院と連携協定を締結する意向を関係者で共有した。 ・3月25日に岡山大学病院院長と協議を実施。 (令和2年度) ・7月22日に岡山大学病院、高梁医師会、市の3者で調印式を実施。	
18					市外の分娩可能施設との連携	(平成30年度) ・市内クリニックから市外の分娩施設へ紹介する体制が既に構築されていることを再確認した。
19					市内医療機関から市外医療機関へ患者を紹介する仕組み	(平成30年度) ・市内医療機関へ送迎状況の調査を実施した。

通番	基本方針	取組みの方向性	施策	考えられる検討事項		成果・進捗状況
20				市外医療機関で入院した後、市内医療機関への転院や退院に向けた連携		・同上
21	2 医療従事者が誇りを持って働ける、持続可能な地域医療	2-1 医療従事者の労働環境改善	2-1-1 医療従事者の働き方改革に向けて、市内医療機関が連携して検討を進めます。	組織横断的な人事異動、人事配置のあり方		
22				業務の効率化	患者とのコミュニケーションに充てる時間を確保できるようにするための業務改善	(令和元年度) ・看護師等の労働環境改善に関するアンケート調査を市内病院看護師を対象に実施し、取りまとめを行った。
23					医師や看護師を中心とした業務量の偏在を解消するための役割分担の見直し	・同上
24				労働時間の改善	24時間対応の緩和に向けた施設間連携	・訪問看護S Tの情報交換会を年4回開催。
25				待遇の改善	業務負荷等に見合った待遇の改善に向けた検討	
26				待遇の改善	職住近接支援	・市の引越費用等の助成事業について、平成30年度2件、令和元年度2件の申請が看護師からあった。
27		2-2 医療従事者間のコミュニケーション改善	2-2-1 所属組織や職種を超えて医療現場に従事するスタッフの意見を交換する機会を設けます。	職種間での交流機会の増加	在宅医療・介護連携推進協議会	・高梁市在宅医療・介護連携推進協議会を年3回開催している。
28					多職種連携研修会	・高梁市在宅医療・介護連携推進協議会において、年に2回多職種連携研修会を開催している。
29					市内医療機関で合同の研修会	・高梁かごねっとは、看護師のリーダー育成研修を市内4病院を会場に4回開催している。その他、フィジカルアセスメント研修などスキルアップ研修を10回以上開催している。 (令和元年度) ・備北保健所が高梁医師会へ委託している「高梁地域在宅医療推進に向けた体制整備事業」を令和元年度からは市の委託事業として継続した。
30				職種間での交流機会に対する医師の参加の促進		(平成30年度) ・多職種連携研修会では、医師による働きかけにより新たに4名の医師が研修会に参加。
31				情報共有のルール整備	入退院における支援ルール	・多職種が連携し、スムーズな入退院支援を行うことを目的に高梁市内の入退院支援ルールを作成している。その中で、病院、在宅担当者が円滑に患者さんの情報を共有し、コミュニケーションが図れるよう高梁版情報共有書を作成し、有効活用している。
32		2-3 医療従事者の能力開発・育成機会の創出	2-3-1 医療従事者の能力開発・育成に向けて、市内医療機関と教育機関が連携して検討を進めます。	プライマリ・ケア領域の強化	小児領域を含めたプライマリ・ケア	(平成30年度) ・産科医・小児科医参集の母子保健連絡会(市健康づくり課所管)が立ち上がった。
33		2-3 医療従事者の能力開発・育成機会の創出	2-3-1 医療従事者の能力開発・育成に向けて、市内医療機関と教育機関が連携して検討を進めます。	患者の満足度向上	患者対応の改善	
34				多忙な医療従事者も研修に参加できる環境の構築	業務負荷を分散する調整スキーム設計	(令和元年度) ・看護師等の労働環境改善に関するアンケート調査を市内病院を対象に実施し、取りまとめを行った。
35				学びやノウハウ共有に向けたヨコの繋がり支援	組織横断的な教育・研修の検討	・看護師を対象にリーダー育成研修や緩和ケア、皮膚・排泄ケア等の研修を順次実施。 (令和元年度) ・摂食、嚥下研修会を8月21日に開催し、多職種110名が参加。
36				現場に活かせる教育プログラムの検討	教育機関による卒業後を見据えた研修の取組み	・吉備国際大学、順正高等看護福祉専門学校では、高梁医師会と連携し、「看護の魅力ガイダンス」を開催し、地域で働く医師や看護師等が授業を実施。 (H30.11.6/R元.7.1)
37		2-4 医療従事者確保に向けた連携強化	2-4-1 地域全体の将来的な見通しを持った採用戦略の策定に向けて、市内医療機関と教育機関が連携して検討を進めます。	地域合同での医療従事者確保に向けた体制づくり	本市の定住施策と連携した取組み	・平成30年度2件、令和元年度2件の申請が看護師からあった。
38				人材が必要な時期、場所、職種、人数、スキルの明確化		
39				医師確保に向けたアプローチ	岡山大学医学部地域卒業医師の獲得	・各医療機関の代表者や行政が県地域医療支援センター主催のWSへ参加し、地域医療を担う医師を地域で育てるための意見交換を行った。
40					医療法等改正の動向を踏まえた県へのアプローチ	(令和元年度) ・7月29日、11月27日に地域医療構想調整会議で医師確保計画、外来医療に係る医療提供体制計画の協議を行った。

通番	基本方針	取組みの方向性	施策	考えられる検討事項	成果・進捗状況
41				看護師確保に向けたアプローチ 本市の医療従事者養成学校における、地域医療の魅力を伝えるカリキュラム等の市内就職を促す取組み	(平成30年度) ・11月6日に吉備国際大学で看護の魅力ガイダンスを開催。 (令和元年度) ・7月1日に吉備国際大学で看護の魅力ガイダンスを開催。 ・8月8日に小中学生を対象に広がる子どもの夢事業で医療現場体験を吉備国際大学で実施。 ・10月24日、11月28日に高梁高校で方谷学として医療に関する講義を実施。 ・11月の校舎長会で、キャリア教育の一環で医療現場に触れることを授業に組み込めないか提案。 (令和2年度) ・6月22日、23日に吉備国際大学看護学科の学生を対象に地域医療における高梁市の取組みを紹介。 ・DVD「高梁市の医療」を市内中学校、高校へ配布。
42				市外の医療従事者養成学校の学生に向けた、市内医療機関で一体となったPR	・4病院、医師会、市が一体となり、市内外の医療従事者養成学校へ働きかけを行っている。卒業生へのアプローチも依頼。 (令和元年度) H31.4.18 順正高等看護福祉専門学校、吉備国際大学、岡山・建部医療福祉専門学校、県立真庭高等学校、新見公立大学(5校) H31.4.23 岡山県立大学、川崎医療短期大学、倉敷翠松高等学校、倉敷看護専門学校、玉野総合医療専門学校、旭川荘厚生専門学校(6校) ・8月13日に市内病院見学会を開催し7名が参加。 (令和2年度) R2.7.15 順正高等看護専門学校、新見公立大学 R2.7.16 県立真庭高等学校 ・10月31日に市内病院見学会を予定。
43				本市で働くことの魅力のPR 本市で働いている優れた医療従事者のPR	(平成30年度) ・高梁医師会で看護師募集のCMを作成。 (令和元年度) ・市では行政放送で地域枠医師や看護師を取材。
44				高梁で実現できるキャリアアプランの明確化	
45				市内医療機関を知る機会の増加 研修受入れの増加	(令和元年度) 新たに順正高等看護福祉専門学校では、6月に高梁中央病院、大杉病院で6名が基礎実習に参加。12月にも高梁中央病院で3名が実習に参加。
46				奨学金制度の普及・改善	(平成30年度) ・吉備国際大学や順正高等看護専門学校の合格通知の送付、オープンキャンパス、入学時オリエンテーションの際に市奨学金チラシを配布することとした。 ・1度県南の病院等へ就職されても5年以内に市内の医療機関等へ就職される意思がある場合は、その間、返還を猶予できるよう規程を改正した。
47			2-4-2 市内医療機関における研修の質を向上させ採用に結びつくことを目指して、市内医療機関と教育機関が連携して検討を進めます。	本市で働くことの魅力のPR 本市で働いている優れた医療従事者のPR	(平成30年度) ・高梁医師会で看護師募集のCMを作成。 (令和元年度) ・市では行政放送で地域枠医師や看護師を取材。
48				高梁で実現できるキャリアアプランの明確化	
49				市内医療機関を知る機会の増加 研修受入れの増加	(令和元年度) ・新たに順正高等看護福祉専門学校では、6月に高梁中央病院、大杉病院で6名が基礎実習に参加。12月に高梁中央病院で3名が実習に参加。
50				奨学金制度の普及・改善	(平成30年度) ・吉備国際大学や順正高等看護専門学校の合格通知の送付、オープンキャンパス、入学時オリエンテーションの際に市奨学金チラシを配布することとした。 ・1度県南の病院等へ就職されても5年以内に市内の医療機関等へ就職される意思がある場合は、その間、返還を猶予できるよう規程を改正した。
51				研修内容の検討	(平成30年度) ・4病院の研修制度を把握するため、看護師確保に関するアンケート調査を実施。
52				研修受入れ先の職場環境改善	
53			2-4-3 潜在看護師をはじめとした離職者の把握、復帰支援について、市内医療機関、教育機関と連携して検討を進めます。	離職者の把握に向けた、地域で一体となったシステム構築	
54				離職者へのPR	
55				労働時間の改善(再掲) 24時間対応の緩和に向けた施設間連携	・訪問看護STの情報交換会を年4回開催。
56				その他の復帰支援の取組みの検討	
57	3 子どもを産み育てやすいまちを目指した出産・子育てサポート体制の整備	3-1 市政の方針や人口ビジョンを踏まえた政策的対応の検討	3-1-1 保育・教育等の関連分野と連携し、予算制約等を踏まえた現実的な取組みについて関係者間での検討を進めます。	市内の医療機関が担うべき役割	(平成30年度) ・市内で分娩施設の設置が現実的ではないこと、現行の多様な出産、子育て支援サービスにより妊産婦の不安は少ないことを共有した。今後は、子育て世代ではない市民にもサポート内容を周知していく。
58				周産期医療を担う人材の育成・確保	助産師の育成・確保
59					産科医確保に向けた検討
60					医療機関間での周産期医療を担う人材の出向・派遣

通番	基本方針	取組みの方向性	施策	考えられる検討事項	成果・進捗状況		
61				市外医療機関との連携	出産サポートにおける役割分担	(平成30年度) ・市内で分娩施設の設置が現実的ではないこと、現行の多様な出産、子育て支援サービスにより妊産婦の不安は少ないことを共有した。今後は、子育て世代ではない市民にもサポート内容を周知していく。	
62			関連分野との連携	出産直後の自宅生活サポート			
63					出産に関する相談体制整備		
64			市内の医療機関が担うべき役割				
65				小児医療を担う人材の育成・確保	小児科医の育成・確保		
66					小児医療を含めたプライマリ・ケア領域の強化(再掲)	(平成30年度) ・市内で分娩施設の設置が現実的ではないこと、現行の多様な出産、子育て支援サービスにより妊産婦の不安は少ないことを共有した。今後は、子育て世代ではない市民にもサポート内容を周知していく。	
67			関連分野との連携	子育てに関する相談体制の整備			
68			出産・子育てに関して、受けられるサポートや利用できるサービスのPR				
69	4 地域での自立した生活に寄り添う基盤の整備	4-1 地域包括ケアシステム構築に向けた医療分野の関与強化	4-1-1 多職種連携の現場における意見を把握し、医療従事者が疲弊している現状にも配慮しながら、地域包括ケアシステム構築のために医療が担うべき役割や目標を検討します。	医療側が行うことの検討		・高梁市在宅医療・介護連携推進協議会において、年に2回多職種連携研修会を開催している。	
70				医療側が介護・福祉分野に求めることの検討			
71				教育機関が医療機関と連携して行う取組みの検討	専門学科の学生による地域貢献	・吉備国際大学では、平成29年度から教養科目に「地域学概論」「地域貢献ボランティア」を新設し、ミニデイサービスや健康福祉のつどいの場で骨密度の測定などにより介護予防の普及啓発を実施している。 (平成30年度) ・高梁高校の進路担当者へ市内大学等への入学状況確認を行った。	
72				やまぼうしの活用	診療情報の共有スキームの構築	(令和元年度) ・6月7日の連携支援システム検討部会にてWEB会議システムの操作説明会を実施。 ・9月27日の連携支援システム検討部会にてやまぼうしの基本操作の説明会を実施。 (令和2年度) ・6月26日に高梁医師会主催で晴れやかネットシェアメド説明会を実施。	
73				退院時カンファレンスへの参加職種の拡大		(平成30年度) ・WEB会議を活用した事例はあったが、今後の実用化に向けて検証が必要。	
74				職種間での交流機会の増加	在宅医療・介護連携推進協議会	・高梁市在宅医療・介護連携推進協議会を年3回開催している。	
75					多職種連携研修会	・高梁市在宅医療・介護連携推進協議会において、年に2回多職種連携研修会を開催している。	
76					市内医療機関で合同の研修会	・高梁かごねっとでは、看護師のリーダー育成研修を市内4病院を会場に4回開催している。その他、フィジカルアセスメント研修などスキルアップ研修を10回以上開催している。 (令和元年度) ・備北保健所が高梁医師会へ委託している「高梁地域在宅医療推進に向けた体制整備事業」を令和元年度からは市の委託事業として継続。	
77					情報共有のルール整備	入退院における支援ルール	・多職種が連携し、スムーズな入退院支援を行うことを目的に高梁市内の入退院支援ルールを作成している。その中で、病院、在宅担当者が円滑に患者さんの情報を共有し、コミュニケーションが図れるよう高梁版情報共有書を作成し、有効活用している。
78				4 地域での自立した生活に寄り添う基盤の整備	4-1 地域包括ケアシステム構築に向けた医療分野の関与強化	4-1-2 介護分野・交通分野と連携して、医療機関利用者の利便性向上に向けた通院支援や交通施策を検討します。	通院手段の充実
79		バスの時刻と診療時間の調整	・既に病院の地域連携室等の職員がバス時刻に間に合うよう配慮している。				
80	4-1-3 在宅医療を担う人員等の拡充に向けて、市内医療機関等が連携して検討します。	生活支援	在宅療養中の生活支援				・高梁市社会福祉協議会では、福祉事業の概要を取りまとめている。
81			入院中の生活支援				
82		救急サポート体制の充実					・独居の高齢者を対象に平成22年度から救急医療情報キットを配布。これまでに延べ5,873名(R2.5月末)が登録され、迅速な救命活動に役立っている。
83		家族へのサポート体制の充実	空床活用による在宅医療患者の短期入院受入れ				
84		医療従事者の確保	在宅医の確保				
85			訪問看護師の確保				
86		医療従事者等の役割の見直し	研修等による在宅医療の周知啓発				・高梁市在宅医療・介護連携推進協議会において、年に2回多職種連携研修会を開催している。
87		医療従事者等の役割の見直し	看護師に求められる役割の変化(医療と介護の連携に看護師が果たすべき役割)についての検討				(令和元年度) ・1月31日に多職種連携研修会で患者の意思決定を引き出すコミュニケーションスキルについて学んだ。(参加者71名)
88			在宅医療の関連多職種をコーディネートする職員の配置、役割、権限などの検討	・川上診療所では在宅医療コーディネーターを配置し多職種連携を強化している。			

通番	基本方針	取組みの方向性	施策	考えられる検討事項	成果・進捗状況
89				プライマリ・ケアの実践、患者本人の意思決定ができなくなる前に患者・家族と医療従事者が治療・療養の方針を話し合う、ACPへの取組み、在宅看取りへの対応等の検討	(令和元年度) ・9月25日に多職種連携研修会でACPの正しい理解と支援者としての関わり方を学んだ。(参加者69名) ・10月11日に県医師会主催のACP研修会を講師に岡山大学松岡順治先生をお迎えし開催。(参加者57名)
90			市内医療機関が取り組むインセンティブ 市内医療機関が効率的に取り組むための方策		
91		4-2 住民目線に立った説明の強化	4-2-1 住民が不安・不満を感じているポイントを踏まえて、市内医療機関の実績、考え方等についてのわかりやすい説明・訴求を強化します。	地域医療の実情 本市の優れた医療従事者のPR	(平成30年度) ・高梁市医療計画の内容を平成30年広報たかはし6月号で特集を組みPRした。また、座談会を開催し、吉備ケーブルテレビで放送した。 ・高梁市医療・介護市民公開講座を1月27日に開催。 ・高梁医師会で看護師募集のCMを作成。 (令和元年度) ・高梁市医療・介護市民公開講座を2月16日に開催。 ・市では行政放送で地域枠医師や看護師を取材。
92				市内医療機関で対応可能な疾患のPR	・同上
93				受療のあり方 コンビニ受診の抑制	(平成30年度) ・高梁市医療・介護市民公開講座を1月27日に開催。 (令和元年度) ・高梁市医療・介護市民公開講座を2月16日に開催。
94				かかりつけ医の定着	・同上
95				在宅医療の普及・啓発	・同上 (令和元年度) ・11月16日に看取りでの経験を語る会～人生の最終段階の過ごし方と在宅医療を考える～と題し、講演会を開催。 (参加者200名)
96				人生の最終段階における療養生活の過ごし方や医療などについて、家族や医師等と話し合うことの重要性	(令和元年度) ・11月16日に看取りでの経験を語る会～人生の最終段階の過ごし方と在宅医療を考える～と題し、講演会を開催。 (参加者200名)
97				市内医療機関の担う役割 市内の医療機関で受けられる医療についての適切な啓発	(平成30年度) ・高梁市医療・介護市民公開講座を1月27日に開催。 (令和元年度) ・高梁市医療・介護市民公開講座を2月16日に開催。
98				病院主治医と在宅医の二人主治医制の検討	(令和元年度) ・高梁医師会において、「訪問診療医師の会」が立ち上がり、訪問診療を始め、二人主治医制等の話し合いが行われている。
99				市民参加型の場 医師が住民と直接対話する場の拡大・展開	(平成30年度) ・高梁市医療・介護市民公開講座を1月27日に開催。 (令和元年度) ・高梁市医療・介護市民公開講座を2月16日に開催。
100				市や一般社団法人高梁医師会のホームページの活用	(令和元年度) ・市HPへ高梁2025～地域医療の高梁モデル構築に向けた100の検討とアクション～として平成30年度の成果を公表。 ・広報計画を策定し、計画的に医療の内容を広報した。 (令和2年度) ・市HPへ高梁2025～地域医療の高梁モデル構築に向けた100の検討とアクション～として令和元年度の成果を公表。